

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」
2019年5月7日 氏名 内田孝也

【JHF 活動履歴】

- 1985年 第5回ハンググライディング世界選手権大会（オーストリア・コッセン）
出場：選手としてJHFより派遣
- 1991年～2001年 第8回～第13回ハンググライディング世界選手権大会
日本代表チーム：チームリーダーとしてJHFより派遣
- 1993年 東京都ハング・パラグライディング連盟設立 理事就任
2006年から理事長 現在に至る
- 1997年～2006年 JHF選挙管理委員会 委員（2002年から委員長）
- 2007年 JHF理事就任（2009年～2017年重任）
- 2010年 第2回パラグライディングアジア選手権大会（四国）主催
- 2011年 公益社団法人移行認定・登記
- 2018年 第18回アジア競技大会（OCA主催）へ選手団公式参加
現在に至る

【JHF 定款への理解】（どれかひとつをマルで囲んでください）

熟知している

【立候補意思表明】 公益社団法人 JHF の活動に関するご自身の考え。

その際に下記2点を含めて下さい。

(1) 今後の JHF が活動していくべきと考える事 (2) ご自分が理事として実践していきたい事

内田孝也です。また、2年の任期が終わります。我々役員の業績は、常時活動していても結果として目に見えない限り「何もしていない」とみなされるものだと覚悟しています。見ている人は居て、わかってくれる筈と言ったら、それでは駄目と怒られたことがあります。人気や評価を得る目的での仕事はしません。ただし、透明性はとても重要で、質問されたら役員会の誰からでも同じ内容が説明されなければいけないでしょう。

前回の選挙の時にも書きましたが、もしこのまま愛好者が減り続けてもゼロにはならないと思います。少ない人口ならそれに合わせて、100年後も日本で自由にフライトする環境を維持していく、それを支え実現できるようにすることが日本ハング・パラグライディング連盟の使命だと思っています。それこそ、ハンググライダーが生まれ、生身で宙に浮くワクワクを手にした、1970年代のスピリッツを継承することだと思います。当然ながら、ハング・パラを楽しむ人口を増やすことは大きな目標です。知らなかったばっか

りに、この素晴らしい世界に参加できなかったという不幸は生みたくありません。

以上のように、過度な商業主義に傾くことなく、また公益性に自縛されることなく、40年来のフリーフライトを次世代の指導層に受け継げるよう、努力していきたいと思えます。私の知見を伝承できる若い役員候補を見出していただき、私と共に次の2年間をお任せいただけるようお願い申し上げます。